



▲幻想的な夜に、願いを込めてそっと点灯する親子

小さな陶芸家が誕生 白竜こども園

11月6日、白竜こども園の年長児「らいおんぐみ」が、陶芸家・松本勝哉さん（笹倉町）の工房で陶芸体験を行いました。園児たちは松本さんの指導を受けながら、ろくろを使って粘土の感触を楽しみ、思い思いのお皿を作りました。後日、工房で焼き上げられた世界に一つだけのお皿が、園児たちの元へ届けられます。



▲初めてのろくろ体験。真剣な眼差しで土と向き合う園児たち

料理で知ろう「世界の文化」 北条小

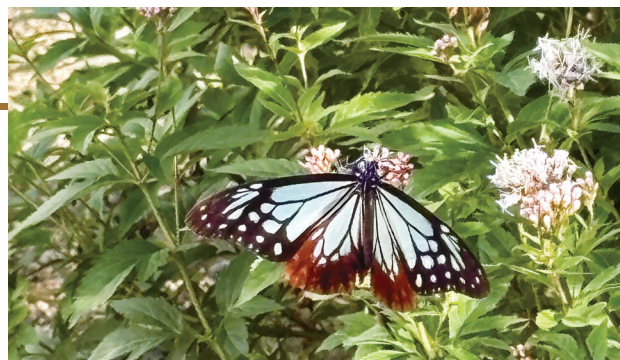
11月5日、加西市連合婦人会などの協力の下、北条小学校で外国籍児童が母国の料理を作り、4年生65人に振る舞う授業「母国の自慢の料理を作ろう」が開催されました。ベトナム、ブラジル、アフガニスタン、ネパール、インドネシアの1～6年生約20人の児童たちが保護者らと協力し郷土料理を調理しました。また、4年生へ母国の歴史や文化を発表し、理解を深めあいました。



▲ベトナムのデザートを作る保護者と児童たち

ようこそ、旅する蝶 富合小

10月28日、富合小学校の花壇に、海を渡る蝶として知られる「アサギマダラ」が飛来しました。2年前、当時の1年生（現3年生）がSTEAM教育の一環として「アサギマダラを呼ぼう会」の協力を得て、アサギマダラにとって長距離の渡りなどに必要な栄養や力を得るための花「フジバカマ」を植えて以来、3年連続の飛来となりました。



▲数千キロの旅の途中、水色の美しい羽を休め「フジバカマ」の蜜を吸う姿

弾ける笑顔 スポーツ少年団のつどい

11月24日、善防グリーンパークで37回目の「スポーツ少年団のつどい」が開催され、19団体から約350人が参加しました。個人耐久縄跳びやグラウンドゴルフ、団対抗の大縄跳びや綱引きが行われ、秋空の下で熱戦が繰り広げられました。競技を通じて交流が深まり、子どもたちの顔には終始、笑顔があふれていました。



▲大縄跳びを最も多く跳んだ「MTランニングクラブ」

AFKから新米プレゼント 今年で10年目

11月26日、認定農業者団体「アスリートファーマーズ加西（AFK）」が、市内こども園など4施設へ4品種の新米計260kgを寄贈しました。「子どもたちに地元のおいしいお米を味わってほしい」と始まった活動は今年で10年目。竹内幹博会長は「地元農業に興味を持つきっかけになれば」と期待を寄せました。お米は各園の給食で提供されます。



▲丹精込めて育てたヒノヒカリなど4品種の新米を手渡す竹内会長（＝認定愛の光こども園）

気球とランタンが彩る夜空

11月23日、鶴野飛行場跡で熱気球の魅力を発信する「加西スカイフェスタ」が開催され、澄み渡る秋空の下で443人が気球搭乗体験を楽しみました。夜の会場は音楽やグルメで賑わい、100基のランタンが空に浮かぶ中、6基の気球が一斉に点火されました。光と音が織りなす幻想的な光景が夜空を彩りました。



▲若手音楽家支援団体「ムーシケー」が演奏する音楽のリズムに合わせて光る気球と淡く光るランタン

響けハーモニー 音楽で心一つに

11月3日、市民会館文化ホールで「第38回加西市民音楽祭」が開催されました。市内の中高生や市民団体など11団体が出演し、合唱や吹奏楽など多彩なプログラムを披露しました。世代を超えた迫力あるハーモニーに、会場からは惜しめない拍手が送られました。音楽を通じて市民の心が一つになる、芸術の秋らしい一日となりました。



▲加西市吹奏楽団の演奏する様子

差別のない社会へ 過去を学び未来へつなぐ

11月5日、ハンセン病への正しい理解と差別の解消を目的に、国立療養所長島愛生園（岡山県瀬戸内市）で研修を行い、市民11人が参加しました。隔離政策の歴史を学び、入所者の講話を聴きました。参加者は「家族から帰郷を拒絶され、一生療養所で生きると決めたという言葉が心に残った」と真剣な面持ちで話しました。



▲歴史館で展示を見学し、過酷な隔離政策の実態と人権の尊さについて学びました

未来へつなぐアタック 堂々の3位

11月16日、三田市で開催された「第43回兵庫県小学生バレーボール選手権大会（第31回勝矢杯）」に、東播地区代表として「泉ジュニアバレーボールクラブ」が出場し、見事3位に入賞しました。近畿大会出場という目標にはあと一步届きませんでしたが、大舞台でチーム一丸となって戦い、練習の成果を発揮しました。



▲健闘した泉ジュニアバレーボールクラブの皆さん。同クラブは、共に戦う仲間を募集中です